

効果に手ごたえ e コミ活用報告会

災害対応

大阪北部地震をはじめ、西日本豪雨災害などの災害が頻発する中、11月19日、市町村社協担当職員を対象にeコミ(0)の活用報告会を開催しました。

枚方市社協事務局次長の染林薫さんからは、ボランティアの活動状況やニーズ項目の可視化を目的としたeコミマップの活用報告がありました。実際にマップへ落とし込むことで地区ごとの被害状況が一目で把握でき、見守り活動の課題解決や行政との情報共有などに活用できます。一方で、eコミを操作できる職員数が限られているという課題があり、被災地社協以外の応援職員の必要性をあげました。



eコミマップ(枚方市)による活動状況の可視化(ピンの色分け)

大判地図でポスティング状況を把握

茨木市社協地域福祉課課長代理の佐村河内力さんは、大判地図(防災科研から提供)を活用



スタッフ全員で共有できる大判地図

した情報管理について報告。地図を地区ごとに分け、ニーズ掘り起こしのためのポスティングやローリング状況を色分けして把握・管理し、災害V/Cを周知する方法として利用しました。その過程で、学生ボランティアや日頃からつながりのある茨木市内の活動者と連携したり、ボランティアの数や交通手段によってポスティングのエリアを遠方や近隣に調整するなどの展開方法について話がありました。

また、防災科研の水井さんは、西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震における被災地社協の浸水エリアや、推定震度情報等のデータと組み合わせた初期期の調査・支援活動優先順位を判断するeコミマップの活用事例を紹介しました。

コーディネーターのコミュニケーション・エンパワメント・オフィスF.E.E.L.D.O代表の桑原英文

府民児協連

めざせ！ 広報活動のスキルアップ

技術の向上に向けて

府民児協連は、民生委員・児童委員の広報力強化を目的に「広報のスキルアップをめざす研修会」を開催しました。当日は株式会社きかんし通信の岡本一也さん、上川健一郎さんを講師に、府内の民生委員・児童委員71人が参加しました。



チラシ作成のワークショップのようす

1日目は広報の基本的な考え方や文章の書き方等について学び、2日目はデザインの手法について学んだあと、グループに分かれてワークショップを行いました。

ターゲットを絞った広報が効果的

思い切ってターゲットを特定の「ひとり」に絞り、その人に興味をもってもらうには、どんな文章やデザインにすればよいのかを想像することが重要なポイント。イベントの参加者が増えるチラシとなるよう、アイデアを出し合いました。



2日間の学びをふまえて、各グループでチラシの作成に挑戦

参加者の声

- 受け手の立場に立って考えることが大切だと学んだ。
- デザインが違っているとこんなに印象が変わるのかとびっくりした。

民生委員・児童委員制度の理解促進に向けて、府内でさまざまな広報活動に取り組んでいきます！



大阪府版ミンジー

大阪社会福祉指導センター前 小河滋次郎博士頌徳碑の植栽を整備

方面委員100年



小河博士は民生委員制度の前身である方面委員制度の創設に尽力しました。

府民児協連は、100周年記念事業の一環として植栽を植替え、頌徳碑周辺の整備を行いました。

この頌徳碑は、昭和8年に当時の方面委員により大阪府庁裏庭に建立され、昭和56年3月、指導センター建設に際し、福祉関係者の目にふれる機会を多くしようと移転されたものです。

金木犀やナンテン、タマリユウなど季節の草花が頌徳碑に彩を添え、新春はカシバキが見ごろを迎えます。

生命保険協会 大阪府協会 2社協に福祉巡回車を寄贈

11月28日、一般社団法人 生命保険協会 大阪府協会(以下 協会)から、島本町社協と府社協へ福祉巡回車(計2台)が寄贈されました。

協会徳留隆夫会長から「地域福祉推進のために活用してほしい」とあいさつがあり、島本町社協から「地域の高齢者や障がい者支援、各種相談援助等に活用していきたい」、府社協からは「今年度は災害が続いた。緊急時対応や日頃の社協事業に活用していきたい」と謝辞を述べました。



協会からは、平成3年度より毎年度、地域貢献活動の一環として府内社協に「福祉巡回車」(累計53台)を寄贈いただいています。



寄贈車(ダイハツミライース)とともに

社協 短期インターンシップ 実施中!

今年度から市町村社協連合会では、短期インターンシップを実施しています。この事業は、社会福祉協議会の活動を広く知ってもらうとともに、社協が担う仕事に関心を持っていただくことを目的としています。

実施期間: 平成31年1月4日(金) ~ 2月28日(木)

対象者: 大学生(主に1回生~2回生)

※詳しくは、下記URLもしくはQRコードからご確認ください。



URL: <http://www.osakafusyakyo.or.jp/chiiki-g/pdf/inturnship.pdf>



さんは、災害時でも迅速に対応するために、見守り活動など平常時の事業でeコミを活用する重要性を述べました。また、被災地社協の事務作業軽減のために、情報の入力や更新作業を外部の応援職員でも担えるよう、府内社協職員の人材育成についでくれました。

最後に、大阪北部地震、台風21号により災害V/Cを設置した被災地社協の支援活動の状況を共有しました。

府内社協間の情報連携を円滑にするためのICTツール。災害時における被災状況や支援活動などの迅速かつ適切な情報収集や情報発信(見える化)、災害V/C運営の省力化とともに、平時における見守り活動や要配慮者支援といった小地域福祉活動の活性化などにも期待されている。

eコミコミュニティ・プラットフォーム(eコミ)とは